

ねん がつ ついたち
2021年1月1日

かみ ははせい
神の母聖マリア

きくち いざおだい しきょう せつきょう
菊地功大司教 ミサ説教

あつ みな しんねん あ
お集まりの皆さん、新年、明けましておめでとうございます。

しゅ こうたん で きごと よろこ きねん いっしゅうかん
主イエスの降誕の出来事を喜びのうちに記念するわたしたちは、それから一週間がた
ったこの日、1月1日に、神の母である聖マリアを記念します。

やみ にんげん すく みち つ もど かみ けいかく せいぼ こと
闇にさまよう人間を救いの道へと連れ戻そうとされた神の計画は、聖母マリアの「お言
葉通りにこの身になりますように」という、神の前でのへりくだりの言葉がなければ実現
しませんでした。そしてその言葉こそは、人生をかけた決断であり、神の意志への完全
な信頼の表明でもありました。

かみ かんぜん したが けつい せいぼ じんせい すく ぬし あゆ
神に完全に従うことを決意した聖母マリアの人生は、救い主であるイエスとともに歩ん
だ人生です。その人生は、シメオンによって預言されたように、「剣で心を刺し貫か
れ」た苦しみ、すなわちイエスの十字架での受難に至る、イエスとともに苦しみを耐え忍
ぶ人生でもありました。しかしながら、聖母の人生とは、苦しみにだけ彩られた悲しい
人生ではありません。

せいぼ てんし こ いだい ひと たか かた こ い
聖母マリアは、天使ガブリエルが、「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われ
る。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、そ
の支配は終わることがない」と告げた言葉を信じることで、その子イエスが人々の希望
の光となることを確信していました。ですから、天使のお告げの通りの出来事を目の当
たりにして興奮する羊飼いたちの道を急ぐ姿と対照的に、聖母マリアはこれからの救
いの出来事の実現という時の流れの先を見据えながら、「すべてを心に納めて、思い巡
らしていた」と福音に記されているのです。聖母は「時のしるし」を識別し読み解こう
と務める教会の、あるべき姿の模範であります。

ねん とし せかいじゅう きぼう みうしな くらやみ さまよ とし せかい おお
2020年という年は、世界中で、希望を見失い、暗闇に彷徨う年でありました。世界で多

くのいのちが感染症のために失われ、また感染症対策のために経済状況が悪化した
り雇用環境が悪化したりする中で職を失う人も増え、孤立と孤独は深まり、その中で
いのちの危機へと追い詰められる人も増えている事例の報道を多々耳にいたします。ま
た多くの国では、その国の経済を支えるために招かれた他国からの方々が、雇用状
況の悪化の中で職を失い、加えて感染症対策のため母国に帰ることもできずに、生活の
危機に直面している事例も耳にします。教会の中にも、そのようにして危機に直面し
ている方々と、それに手を差し伸べる活動に取り組まれている方もおられます。

教皇ヨハネ 23 世は、回勅「地上の平和」を、次のような言葉で始めています。

「すべての時代にわたり人々が絶え間なく切望してきた地上の平和は、神の定めた秩序
が全面的に尊重されなければ、達成されることも保障されることもありません」

つまり、神の定めた秩序が実現している世界こそが、平和の実現した世界であると説い
ています。私たちキリスト者は、福音に忠実に生きようとする限りにおいて、「平和」
の実現から目を背けて生きていくことは出来ません。なぜなら「平和」の実現とは、単
に戦争がないとか武力紛争がないとか治安が良いとかの問題に留まるのではなく、まさ
しく神の定めた秩序が実現しているのかどうか、つまり神の望まれる世界が実現してい
るのかどうかの問題だからです。

そして、少なくとも今の私たちが生きる世界をみて、神は満足されていないのであれば、
そこには「平和」はありません。神が賜物としてわたしたちに与えられたいのち、神が自
ら人として受肉することによって高らかに宣言された人間の尊厳。そのいのちが、人間
の尊厳が、ないがしろにされている社会に、神の望まれる秩序は成立せず、従って「平和」
もあり得ません。

「お言葉通りにこの身になりますように」と言う聖母の言葉は、まさしく神が定められ
た秩序が、自らの人生をとおして実現してほしいという願いの表明であり、すなわち
聖母の人生は、神の秩序の確立のための人生であり、平和を生み出そうとする人生であ
りました。聖母は、平和の実現のために働く教会の、あるべき姿の模範であります。

みづか たい かみ にんげん せいめい やど せいぼ かみ きょうかい はは あた
自らの胎に神を人間として生命を宿らせた聖母マリアを、神は教会の母として与えら
れます。それによって、神はわたしたちに、生命の尊厳を守りぬく責務の重要性を自覚
させようとしています。聖母は、いのちを守ろうとする教会の、あるべき姿の模範であり
ます。

きょうかい とし はじ ひ せ せかいへいわ ひ さだ せかい かみ のぞ ちつじょ かくりつ
教会は年の初めのこの日を、「世界平和の日」と定め、この世界に神が望まれる秩序が確立
され、平和が実現するようにと祈り求めます。

かいめ ことし きょうこう へいわ みち
54 回目となる今年、教皇フランシスコはそのテーマを、「平和への道のりとしてのケア
の文化」と定められました。

なか きょうこう さくねんいちねん しんがた かんせんしょう きき とく
メッセージの中で教皇は、昨年一年の新型コロナウイルス感染症によるいのちの危機への取り組
みを振り返り、すべての人の尊厳と善を守り育てる、互いに思いやりいたわる文化、つ
まりケアの文化を確立することこそが、平和構築にとって最優先の課題であると指摘し
ています。

きょうこうさま かぞく あい ひと な ひと しごと うしな
教皇様は、このパンデミックによって、家族や愛する人を亡くした人、さらには仕事を失
った人たち、医師、看護師、薬剤師、研究者、ボランティア、チャプレン、病院や保健機関
の職員など、いのちを守るために最前線で働き、時には命さえ犠牲にしている人たち
へ、特別な感謝の思いを表明されています。そういった思いやりと助け合いの現実が見
られるにもかかわらず、「さまざまなかたちのナショナリズム、人種差別、外国人嫌悪、
さらには死と破壊をもたらす戦争や紛争が、新たに勢いを増していること」は悲しいこ
とだったと振り返ります。

きょうこうさま れいてき ぶつてき わざ たす あ ささ あ しよだいきょうかい
教皇様は、霊的・物的ないつくしみの業による助け合いと支え合いは、初代教会から
の愛の奉仕の伝統であり、現代社会にあつて教会は「ケアの文化」を確立するために、
「人間の尊厳と権利の促進」「共通善」「連帯」「被造物の保護」を推進するようにと求
めておられます。

うえ きょうこうさま つぎ しる
その上で、教皇様は次のように記しておられます。

「^{れんたい}連帯とは、^{とうけいじょう}統計上の^{すうじ}数字や、^{こくし}酷使され、^{やくだ}役立たなくなれば^す捨てられる^{どうぐ}道具としてでは
なく、わたしたち^{どうよう}同様、^{かみ}神から^{ひと}等しくいのちの^{しゅくえん}祝宴に^{まね}招かれている^{りんじん}隣人、^{たび}旅の^{どうほんしゃ}同伴者として、^た他の^{ひとびと}人々を^み見る^{たす}助けとなるものです」

^{あた}新しい^{とし}年の^{はじ}初めにあたり、わたしたちはまだ^{こんなん}困難な^{やみ}闇の^{なか}中に取り^と残^{のこ}されています。^{じょじょ}徐々に^{ひかり}光が見えてきているものの、^{やみ}闇は^{ふか}深く、この^{いちねん}一年わたしたちが^{あゆ}歩む^{みち}道には、さまざま
な^{こんなん}困難が^よ予想^そされます。^{こんなん}困難のなかにあってもなお見^みいだされる、^{あい}愛と^{れんたい}いつくしみの^{れんたい}連帯
に^{きぼう}希望を見^みいだしましょう。^{たいりつ}対立や^{はいじょ}排除のなかにあっても見^みいだされる、^{こころ}いたわりの^{こころ}心
に^{きぼう}希望を見^みいだしましょう。そして見^みいだした^{きぼう}希望を、^{せいぼ}聖母^もマリアの^{もほん}模範に^{なら}倣^{こころ}って^{なか}心の中
で^{はぐく}育^みみ、^{みずか}自らの^{じんせい}人生での^{ことば}言葉と^{おこな}行^{つづ}いで、あかしし^{つづ}続けてまいりましょう。

^{やみ}闇に^{さまよ}彷徨^{たみ}う民であるわたしたちに、^{みんすう}民数記は^{かみ}神からの^{しゅくふく}祝福の^{ことば}言葉を^{しる}記し、^{こころ}心に^{ゆうき}勇気と
^{きぼう}希望を^{あた}与えてくださいます。

「^{しゅ}主があなたを^{しゅくふく}祝福し、あなたを^{まも}守られるように。主が^{しゅ}御顔を^み向けてあなたを^て照らし/
あなたに^{めぐ}恵み^{あた}を与えられるように。主が^{しゅ}御顔をあなたに^む向けて/あなたに^{へいあん}平安を^{たまわ}賜るよ
うに。」